

平成 28 年度 国立中央青少年交流の家  
富士のさと ボランティア養成研修

# 子どもの体験活動を支援するリーダーへ

平成 28 年 6 月 18 日（土）～6 月 19 日（日） 1 泊 2 日

## ○目的

青少年の体験活動を支援するボランティアに求められる知識・技能を習得するとともに、ボランティア活動の意欲を高める。

## ○参加者

自然体験活動やボランティア活動に興味・  
関心のある高校生，大学生，社会人  
計 43 名（内訳：男性 25 名，女性 18 名）

## ○事業の内容

### （1）「ボランティア活動の実際」

講師：次長 山下達也 担当：企画指導専門職 柳原雅人

はじめに、青少年教育施設の教育機能や役割、ボランティア活動の意義や必要性について理解を深めました。その後、アイスブレイクゲームを通して身体と心の緊張をほぐしました。



### （2）「子供たちの“いま”を知ろう」

講師：常葉大学短期大学部准教授 遠藤知里氏

対象者の特性を理解するために、自分の子供の頃を思い返しながら、今の子供が“好きなもの”“十分に持っているもの”“不足しているもの”を話の糸口にして、子供の現状や課題について考えました。



### （3）「野炊の王道：カレーライスをつくろう」

担当：企画指導専門職 齋藤潤

KYT（危険予知トレーニング）を行った後、実際にカレーライスを作ることで、安全に野外炊事を指導するための知識や技能を身につけました。グループ活動の面白さも味わいました。



### （4）「みんなでキャンプファイアーを創りあげよう」

担当：サポートボランティア

過年度に本研修を受講したサポートボランティアが、企画から担当しました。事前より準備を進めていた楽しいゲームによって大いに盛り上がりました。参加者にとっては良い交流の時間となりました。



(5)「交流の家を知ろう～事業紹介～」 「ホットドッグづくり」

担当：主任企画指導専門職 館健一

サポートボランティア

昨年度の教育事業「富士サマーキャンプ」のDVDを鑑賞し、当交流の家の教育事業について知りました。

2日目の朝食はサポートボランティアが企画し、野外炊事お手軽クッキングのホットドッグづくりを行いました。



(6)「安全管理と応急処置を学ぼう」

講師：フジ虎ノ門病院看護師 杉浦信志氏

担当：企画指導専門職 小見山浩二

まず、野外活動時における安全管理について、どのようなことに気をつけるべきかを考えました。その後、よくおこる傷病を取り上げ、その対応について実習を通して学びました。



(7)「リーダーの役割と心構えを考えよう」

担当：サポートボランティア

実際に様々な場で活動しているサポートボランティアからの話を聴きました。リーダーの役割と心構えについて考え、「先輩(サポートボランティア)のようになりたい。」という気持ちが膨らみました。



《参加者の感想》

- ・ 2日間と短い間でしたが、内容の濃い素晴らしい時間を過ごさせていただきました。皆の考えを知り、自分の理想を言葉にできて良かったです。
- ・ リーダーの役割と心構えを考えることで、自分自身を見つめ直す良いきっかけとなりました。サポートボランティアのみなさんが優しく素敵で、輝いていました。私もあのような存在になれるよう頑張ります。
- ・ 若い世代が集まり、毎年研修を続けていて素晴らしいことだと思います。そして、その修了生が繋がっていることも素晴らしいです。

《成果と課題》

- 研修を受講したことで、ボランティアについての意義を理解し、次の活動への意欲の高まりが見られた。ほとんどの参加者が、今後開催される教育事業に参加したいと希望した。昨年度まで参加のなかった、地元幼稚園・保育園への出前事業にも希望があった。
- 様々な場で経験を積んだサポートボランティアが、運営スタッフの一員として関わることによって、受講者に、これまでの経験をより具体的に伝えることができた。また、サポートボランティアにも参加者にも社会人がいたため、社会人になってからもボランティア活動を続けたいと感じる学生がいた。
- 今後も、養成研修を修了したボランティアが活躍できる機会を積極的に生み出していく。また、継続的に活動をすることができる仕組みをより充実させていく必要がある。